

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	沼津センター		
○保護者評価実施期間	令和6年9月15日		～ 令和6年10月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和6年9月15日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動が固定化されないように様々なプログラムを用意している。	平日の全体活動は各職員の担当制で行いプログラムが固定化されないように工夫しています。工作や調理等は季節にあった活動を行っています。学校休業日の活動は子どもの意見を取り入れた活動の一つ、社会性向上のための施設外への外出活動、お誕生日会、公園等、様々な活動を用意しています。	五領域を意識したプログラムを設定。また、一つの領域に偏らないようにバランスを考えること。平日のプログラムは担当制だが職員全体で支援を行えるような体制づくり、学校休業日の活動は選択肢を増やし子どもが選択できるようにすること。
2	職員は穏やかに支援を行い、子どもの気持ちに寄り添い、ポジティブなアプローチを重視。職員入れ替わりが少ない。安心して通えるような施設運営。	当日の児童の様子や状況を見て、プログラムを強制することせず、別のプログラムを行うなどの対応を取る。児童の様子を普段から注意深く見ているため、いつもと違う様子の際は聞き取りを行い、悩み事があるときはポジティブな声掛けを意識しています。安心して通うことができる施設運営をしています。	研修や勉強会を通して、児童のメンタル面のケアを行う。活動に参加できない児童に対して個別プログラムの充実
3	SNSや連絡帳を通して情報共有や当日の児童の様子の共有を行っている。	送迎時の口頭での伝達では、当日の児童の様子をすべて伝えることが難しいため、活動中の様子を写真や動画で送り共有しています。動画や写真で送る際は、他の児童が映らないようにしています。	長期休みの活動、毎月の学校休業日の活動など施設頼りとして共有し、保護者の方がどのようなプログラムを行ったか周知できるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の施設が年季が入っているため、受け入れられない児童がいる。	事業所のトイレが古いからと、本来は通所を増やしたい児童から敬遠されてしまっている。大雨が降ったときに雨漏り箇所があるところ。	トイレに関してはストレスに感じている児童は施設外のトイレの利用を使用できるように調整。賃貸の為、対応が難しい面もあるが、設備改善に協議していきます。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられていない。	開催予定だったが、新型コロナウイルスや感染症の流行を鑑みて開催することができなかった。	保護者会で話し合いたい内容や日程の調整をアンケートし、感染症の流行の様子を見て開催したい。
3	地域に開かれた事業運営	地域の学校の学童や、ボランティア協議会への連絡ができていない。	就労支援事業所との交流や、近隣の児童クラブとの交流プログラムを計画していきたい。また、地域の行事に参加し、地域との交流する機会を増やしていきたい。